

平成27年度 事業報告書
特定非営利活動法人ひと・まち・あーと
(自) 平成27年4月1日～(至) 平成28年3月31日

1、 コミュニティスペースの運営に関する事業

龍野城下町コミュニティ「Toilinks」

本社事務所も兼ねる Toilinks は、地域ニーズに応じて必要な機能を随時追加した。今年度の大きな前進は、空き家のマッチング機能が本格的に運用を開始したことと、地域の空き家を開拓するという目的も併せ持った、「なんでも屋」を開始したことにある。

なんでも屋機能

城下町の高齢者などの困りごとに応じ、家の片付け・ゴミ出しから電球交換など、幅広い要望に対応した。平成28年3月からは、城下町の八百屋が閉店したことによる買い物難民が生まれたことにより、地域の要望を受けて生鮮野菜を扱う「わらしへ市」の運営開始した。



コワーキングスペース機能

レンタルスペースとして各種イベントに提供するほか、フリーランスのデザイナーやライターなどの新規訪問者が大幅に増加し、新たな企画の創出や利用者同士のマッチングの場ともなっている。

遊休不動産マッチング機能

城下町の空き家と移住や新規開業を考えている人のマッチングを行った。今年度は空き家の状況把握を中心に進め、実態調査を行った。

チャレンジショップ機能

城下町に店舗を構えたいという相談の増加とともに、チャレンジショップの利用も増えている。3月末時点で、マッサージ・親子向けリトミック教室・英会話教室の3屋号がチャレンジ中。単発利用も増えている。また、ネットショップ運営を行う起業したての若者に事務所として一室を提供している。



旧龍野藝術工房「伊勢屋」「米蔵」の維持管理・再活用

平成 24 年 12 月末をもって閉館したが、防犯上の問題や建物の管理面で不安が残るため契約を維持している。消防法などの問題で本格活用は難しいが、家賃や火災保険料などの負担が大きいため、再活用に向けて準備をスタートし、建築当初の姿に復元する作業を行い、地域活性化イベントへの参画・協力という観点から、「オータムフェスティバル」と「まちぢゅう美術館」へは引き続き参加した。

しかしながら、平成 27 年末に隣接・棟続きの「菊屋」が一部崩壊したため、根本的な運営体制の見直しを迫られている。



コミュニティBARふるさとの再オープンに向けた企画立案

地域コミュニティの象徴的な場として再オープンに向けて解体作業や壁塗りWSなどを進めたほか、再オープンの前段階で、前オーナーの岡本みつ子さんと「一品料理ふるさと」への理解を深めるためのイベントを開催した。コミュニティBARふるさとは、平成28年4月上旬にオープンを予定している。物件は9月に関連会社の株式会社緑葉社が取得。



その他の空き家の再活用に向けた企画立案

旧中川診療所や、旧山田邸、旧川原町まちやギャラリー等の再活用に向けた企画を立案したほか、各物件の片づけ作業等をボランティアスタッフ等によって実施した。



2、作家活動への支援に関する事業

活動拠点の提供

芸術作家の事務処理の代行や作品販売の支援を行っている。個展会場の斡旋や工房の提供を行うなどの活動を行う。

イベント運営の支援

プロアーティストのライブイベント等の支援

秋田慎治（ピアニスト）

4月13日に姫路・文化堂にてライブイベントを企画。

多田周子（歌手）龍野出身

10月にメジャーデビュー。それに伴う啓発イベントで音響等の運営支援。

油火（ファイヤーショー）

姫路セントラルパークで行われる年間50回に及ぶイベントでの音響等の運営支援。



3、地域活性化プロジェクトの企画・運営に関する事業

たつの観光プロモーション事業

武魂盛隆士隊と連携して甲冑着付などの体験型プログラムの企画・運営をスタートさせ、「たつの観光プロモーション事業」をたつの市補助事業で展開している。「サムライコードが残る町」というキャッチコピーのもと、甲冑を身に着けるほか、茶道や味噌づくりなど、城下町の暮らしを垣間見れるようなプログラムを複合的に展開する。

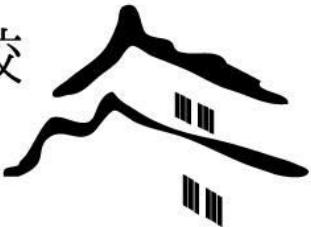
2月に開催した甲冑展は大盛況で、龍野城として史上最高の来場者数を記録した。また、市外・県外でのキャラバンを積極的に展開し、たつの市のPRを各地で行った。



龍野城下町むかしめらい学校

龍野城下町の店舗オーナーと出店や移住を検討している人の交流と学びの場としてスタートした。地域住民などの参加もあり参加者数も多く、注目度と期待度は高い。城下町外の人と住民や店舗オーナーを繋げる場所として開催。龍野ゆかりの映画鑑賞なども行い、龍野への理解を深めた。

龍野城下町 むかしめらい 学校



また、兵庫県青少年本部による「ふるさとづくり青年隊事業」で地域外の青年を多数受け入れ、新たなスタッフや仲間が加わるきっかけとなった。



晴れ舞台プロジェクト

ハレの日俱楽部

龍野城と城下町を中心に、想い出作りをしてもらうことが長期的な観光客・居住者誘致につながるというプロジェクトとしてスタートした「しろ wedding」に続く、派生企画として、姫路のNPO法人美メイク・アクトレスとの共同事業。「ハレの日俱楽部」を美メイクと共同で商標登録し、本格的な事業展開を模索中。



えんむす日運営委員会

「佐用町出会い支援推進事業」および「宍粟市出会い系応援事業」の受託により、合計3回の出会い系イベントを開催した。

4、地域活性化プロジェクトの研究に関する事業

Creative Making Lab の設置

前代表の堂野が所長に就任し活動を開始した。

5、社会貢献を目的とした団体の企画運営及び支援に関する事業

西播磨ソーシャルサポートセンター

西播磨地域のNPO法人等への中間支援事業として、ひょうごボランタリー基金の事業助成を受け、NPO法人の設立相談や運営相談を行う。また、たつの市・日本政策金融公庫と連携してソーシャルビジネスに関わる支援ネットワークを構築した。その後、産業競争力強化法に基づく相生市とたつの市の創業支援事業計画策定に参加し、28年度以降の事業を開始する足掛かりを作った。

また、企業のCSR活動に関する相談を受ける件数も増加しており、地域やNPO法人等と企業のマッチングやコーディネートなども行った。



エアレットスペース協議会事務局代行

ひょうご産業活性化センターの前理事長の吉岡昭一郎氏を会長に招聘して平成26年9月に発足した。4回の定期会合を開催し、各回10社以上の経営者が参加。各社が合同で「味覚以外の四感で快適と感じる空間（エアレットスペース）の創出」を目指し、介護支援関連や環境負荷の軽減を目指した製品開発などを行っている。